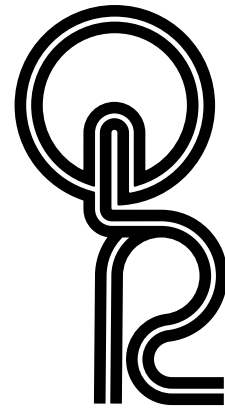


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 6 No. 2, 1999



写真： 国立歴史民俗博物館で開催された第7回日本第四紀学会講習会における加速器質量分析計放射性炭素同位体年代測定のための試料調整の実習 池田晃子撮影（本文8頁参照）

Vol. 6 No. 2		April 1, 1999	
地球惑星科学関連学会合同大会	2	セミヨーノフ記念シンポジウム	9
日本第四紀学会 1999 年大会	4	日韓地形学合同大会	10
第7回第四紀学会講習会報告	8	第5回国際地形学会議	11
大学における第四紀学の教育・研究 の現状について	9	評議員会報告・幹事会報告	12
		会員消息	15

1999年地球惑星科学関連学会合同大会（第3報）

1. 合同大会会期：1999年 6月8日（火）～ 6月11日（金）
2. 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（〒151 東京都渋谷区代々木神園町3-1）
小田急線「参宮橋」駅下車 徒歩約7分
地下鉄千代田線「代々木公園」駅下車 徒歩約12分（案内図参照）

『第四紀』セッション（記号Ld）のプログラム

編集の都合上、暫定版を掲載しております。参加される方・発表される方は、念のため地球惑星科学関連学会合同大会ホームページ[<http://mc-net.jtbcom.co.jp/earth99/>]で事前にプログラム確認をして下さい。
なお、以下のプログラムでは、著者が4名以上の場合、最初の3名だけが記載されております。

オーラルセッション 6月9日午後 会場 C401 座長：斎藤文紀・山崎晴雄

- 14:00-14:15 北海道の主要完新世テフラガラスの屈折率と水和の影響 中村有吾・片山美紀・平川一臣
- 14:15-14:30 テフラ同定のためのEDSによるチタン磁鉄鉱の主成分化学組成分析 鈴木毅彦
- 14:30-14:45 チタン磁鉄鉱の主成分化学組成による広域テフラ Ng-1 と高山軽石層の対比 田村糸子・鈴木毅彦
- 14:45-15:00 完新世テフラの高精度年代決定 奥村晃史・嶋田 繁・鈴木毅彦
- 15:00-15:15 南極とグリーンランド氷床コアに検出される過去200年の火山噴火起源硫酸シグナル 河野美香・藤井理行・福岡孝昭
- 15:15-15:30 休憩
- 15:30-15:45 第四紀の地磁気のイベント 兵頭政幸
- 15:45-16:00 走査型X線分析顕微鏡を用いた水月湖湖底堆積物の高分解能化学柱状図の作成 浜田雄俊・高野雅夫・福澤仁之
- 16:00-16:15 湖沼堆積物に記録された諏訪盆地における断層活動史 斎藤耕志・小平秀朗・福澤仁之
- 16:15-16:30 第四紀後期における関東山地の地殻変動 田力正好・池田安隆
- 16:30-16:45 別府湾北岸地域の第四紀テクトニクス 峯元 愛・竹村恵二・伊藤康人
- 16:45-17:00 ハイドロアイソスタシーに関するブルーム仮説の再検討 菊地隆男

ポスターセッション 6月9日夕方

- サハリン中部東海岸の段丘地形 植木岳雪・Kozhurin・Andrei I.・Streltsov, Mihail I.
- 堆積学的手法にもとづく千島海溝沿岸地域の古津波？研究 七山 太
- Lunch Box 定方位試料作成法を用いた津波堆積物の堆積構造の研究... 重野聖之・七山 太
- 浅間山東南麓湯川のポットホールおよび周辺地形について 戸田雅之・長内優之
- 相模川山間部-大磯丘陵に分布する中期更新世テフラの対比 今泉知也・鈴木毅彦
- 南芦屋浜埋立地で実施されたボーリングの地質層序と周辺地質構造との関係 斎藤礼子・北田奈緒子・溝上寿子
- 前期更新世哺乳類動物相と古環境 仲谷英夫・諏訪 元・Asfaw Berhane
- エチオピア地溝帯南部に分布するコンソ累層の層序と年代 加藤茂弘・長岡信治・ギデイ・ウォルデガブリエル

合同大会全体のスケジュール

(1) オーラルセッション

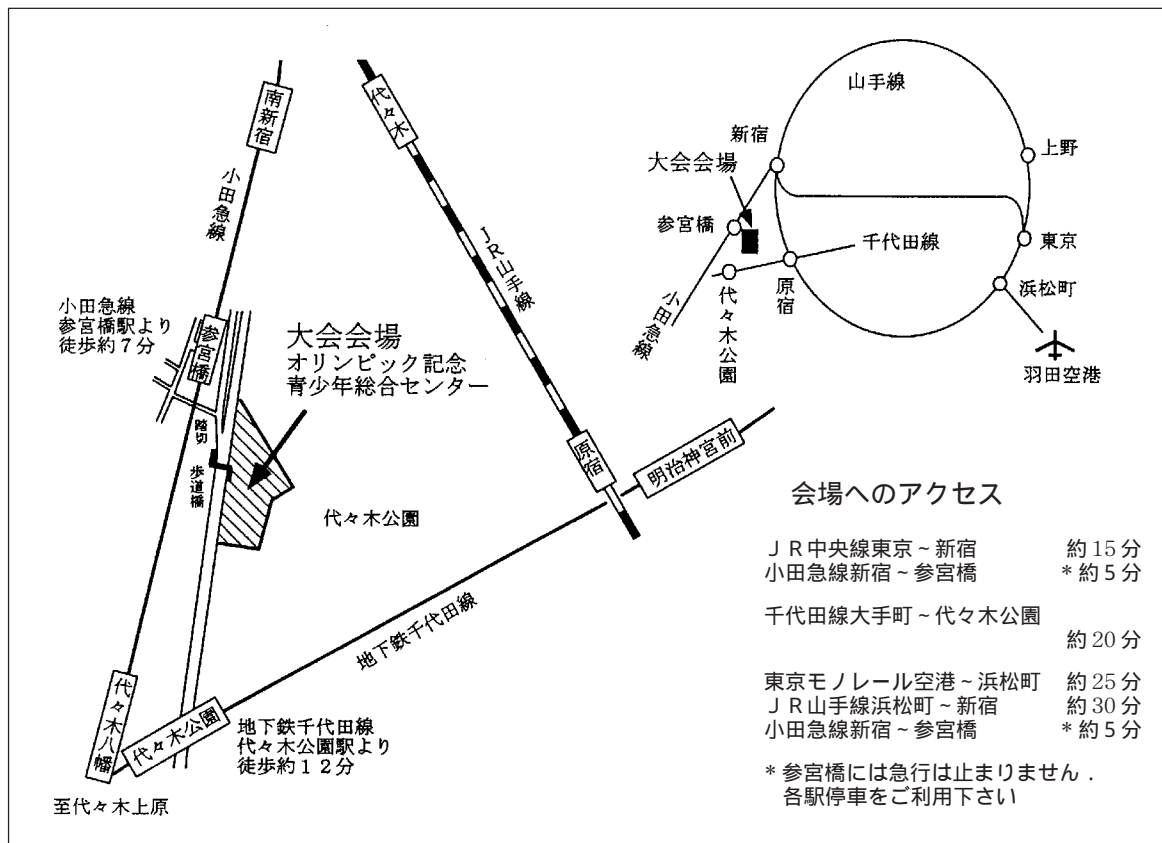
会場	6月8日(火)午前	6月8日(火)午後	6月9日(水)午前	6月9日(水)午後
IC	De 海半球	De 海半球	Ai 深部内部構造	Ai 深部内部構造
IM	Ga 大陸	Gb 花崗岩・超高温 変成作用	Gc 地質一般	Gd 変形微細構造
C101	Da GPS 気象学(II)	Db 測地学一般	Dc 地球計測技術	Dd 地殻変動
C102	Av 噴火・災害予測	Av 噴火・災害予測	Va マグマダイナミクス	Vb 火山深部プロセス 火山深部プロセス
C304	Eg 太陽圏 Ed 電離圏・熱圏	Ed 電離圏・熱圏	-	Af 乱流
C309	Df 海底拡大系	Df 海底拡大系	Ae 電磁気透視図	Ea 大気圏
C310	Pa 火星	Pb 惑星大気	Pd 惑星科学(1)	Pc 比較惑星系
C311	Ef 磁気圏構造	Ef 磁気圏構造	Ee 磁気圏・電離圏	Ee 磁気圏・電離圏
C401	La 断層岩と地震	La 断層岩と地震	As 史料地震・火山	Ld 第四紀
C402		Sa 海底に開く窓	Lc 古気候・古海洋	Lc 古気候・古海洋
C409	Am 地層処分	Ma 地球表層化学	Mc 岩鉱・資源 ・地化学	Mb 鉱物・水・大気 ・微生物
C416	Sb 活断層・古地震	Sb 活断層・古地震	Sc 地殻温度・熱	Sd 地震計測・システム Se 地震の理論・解析法
C417	Sk 島弧	Sk 島弧	Sg 強震動・災害	Sg 強震動・災害 Sh 地盤構造・震動
C501	Sj 地震諸現象	Sj 地震諸現象	Sk 島弧	Sk 島弧

会場	6月10日(木)午前	6月10日(木)午後	6月11日(金)午前	6月11日(金)午後
IC	Ai 深部内部構造	-	-	-
IM	-	-	Ge マントル・地殻形成	Ge マントル・地殻形成
C101	Z1 「未来はあるか」 シンポジウム	(測地総会)	Dg 固体シミュレータ	Dg 固体シミュレータ
C102	Vc 火山形成過程	(火山総会)	Vd 岩手火山等	Vd 岩手火山等 Ve ハワイ型火山
C304	-	-	-	-
C309	Ea 大気圏	-	Ah 全地球史	Ah 全地球史
C310	Pd 惑星科学(2)	(惑星総会)	Pe 衝突	Pf 月
C311	Ee 磁気圏・電離圏	(SGEPS 総会)	Eh プラズマ・波動	Eh プラズマ・波動
C401	Ec 古地磁気・岩石磁気	Ec 古地磁気・岩石磁気	Eb 内部電磁現象	Eb 内部電磁現象
C402	Mc 岩鉱・資源・地化学	-	Aw 水	Md 物質物理化学
C409	Lb 放射線効果年代測定	-	-	-
C416	Sf 地震一般	-	-	-
C417	Sh 地盤構造・震動	Zf フューチャーセミナー (地震総会)	Si 地震発生物理	Si 地震発生物理
C501	Si 地震発生物理	-	Sm 地震活動	Sm 地震活動

(2) ポスターセッションなど

- 6月8日(火)夜 ポスター, IM:(深海掘削)
 6月9日(水)夜 ポスター, Xv:青少年セミナー
 6月11日(木)昼 ポスター

合同大会会場案内図



日本第四紀学会 1999 年大会 - 総会・研究発表会 (第 2 報)

1. 日時, 開催場所の概要 (1999 年 8 月 23 日～ 27 日: 京都大学)
2. 発表の申し込み (締め切り 6 月 11 日)
3. シンポジウム (概要決定)
4. 巡検の概要 (申し込みは次号)
5. 普及講演会 (企画中)

1. 日時, 開催場所の概要

日程: 1999 年 (平成 11) 年 8 月 23 日～ 27 日

日本第四紀学会研究発表大会及びシンポジウム + 巡検

実行委員会 委員長: 岡田篤正 副委員長: 増田富士雄

委員: 竹村恵二・堤 浩之・植村善博・水野清秀 ほか

連絡先: 竹村恵二

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地球物理学教室

〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町

Tel. 075-753-3942 (研究室) 075-753-3910 (事務室)

Fax 075-753-4291 (研究室) 075-753-3717 (事務室)

e-mail takemura@kugi.kyoto-u.ac.jp

開催場所: 京都大学理学部 1 号館 5 階大講義室と周辺の講義室・会議室

〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町

8 月 23 日 (月) 一般研究発表 夕方 評議員会

8 月 24 日 (火) 一般研究発表・総会 夕方 懇親会

8 月 25 日 (水) シンポジウム

『活構造と都市地盤・災害 - 阪神大震災から 5 年目の発信 - 』

8 月 26 日 (木)～ 27 日 (金) 巡検, 及び普及講演会 (企画中)

2. 発表の申し込み

2-1. 一般研究発表の申し込み

今大会では、一般研究発表をオーラル・セッションとポスター・セッションの2つに区分します。ポスター・セッション会場は、オーラルセッション会場と同じフロアの休憩室を兼ねた会場を予定しており、ポスターの掲示は終日可能です。

一般研究発表での講演を希望される方は7ページにある「発表申込用紙」(コピーでよい)に所定の事項を記入の上、「9. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿及びそのコピー1部を、6月11日(金)までに(必着厳守)行事委員までお送りください。原稿の行事委員へ到着をもって原稿の受け付けといたします。一般研究発表では1人一件のみの発表が可能です。オーラル・セッションの発表時間は1人およそ12分(質問時間を除く)程度を予定しています(発表件数によって変更の可能性有り)。発表時間を厳守していただくために、スライド・OHPの使用は合計で8枚以内とさせていただきます。十分な説明や討論を希望する方には、ポスター・セッションへの申し込みをお勧めいたします。昨年同様にポスター発表の口頭ショートサマリー発表を行う予定です(各2-3分)。オーラル・セッション、ポスターセッションともに講演要旨集に2ページ執筆して下さい。オーラルセッションでのスクリーンは、スライドとOHPを合わせて2つ使用可能です。

要旨集原稿の送付先

305-8567 茨城県つくば市東 1-1-3 地質調査所海洋地質部

日本第四紀学会行事委員 斎藤文紀あて

(TEL 0298-54-3772, FAX 0298-54-3589 E-Mail: yoshi@gsj.go.jp)

(送付先は実行委員会ではありません。お間違え無きようご注意ください。)

2-2. シンポジウムの原稿提出

シンポジウムで発表される方は、「2-3. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿およびそのコピーに、「発表申込用紙」(コピーでよい)を添えて、6月11日(金)までに上記の行事委員までお送りください。原稿枚数は2ページまたは4ページでお願いします。

2-3. 講演要旨の原稿の書き方(7ページ参照)

原稿用紙は、発表者各自が用意したA4版白紙を、横書き・縦置きで使用してください。左右各2.5cm、上端3.0cm、下端3.5cmは空白にしてください。表題・著者名は、(例)のように和文表題・著者名(所属)、英文著者名・表題の順に書いてください。

和文表題は、1行目の左側を1.5cmあけて(左端から4.0cm)左詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも、1.5cmあけて左詰めで続けてください。和文著者名は、和文表題の後改行して、発表者を右端に右詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも右詰めにしてください。所属は和文著者名の後にカッコをいれて簡潔に書いてください。

英文著者名・表題は、和文著者名の後改行して、左詰め著者名・表題の順に「;」でつなげて書いてください(所属は不要)。本文は英文表題の次の1行をあけて書き始めてください。行数・字数は自由ですが、36行・35字程度を目安としてください。不明な場合は昨年の要旨集を参考にしてください。本年も同一仕様です。

ワープロ使用の場合は濃く印字してください。手書きの場合は黒色インクまたは黒色ボールペンを使用し、濃く細く書いてください。手書き図表の場合は黒インクを使用し原稿用紙に直接書くか、あるいは青色方眼紙・白紙・トレーシングペーパーなどに清書して枠内に貼ってください。図が原稿の上下端、左右端の空白部分にかからないようご注意ください。印刷時にA4版の原稿がB5版に縮小されますので、図の縮尺については「何分の1」という表現はしないで、必ずスケールを入れてください。

3. シンポジウム

『活構造と都市地盤・災害 - 阪神大震災から5年目の発信 - 』

日本第四紀学会 1999年シンポジウム準備委員会

シンボ世話人 岡田篤正・竹村恵二・杉山雄一・三田村宗樹・増田富士雄

プログラム

- 9:00-9:10 シンポジウム主旨説明 シンポジウム世話人会
- < 活構造 >
- S1 9:10-9:50 近畿の主要活断層調査の活動履歴・歴史地震・成果・総合評価 杉山雄一・寒川 旭 (地質調査所)
- S2 9:50-10:20 内湾の活構造 - 大阪湾と伊勢湾 - 岩渕 洋 (海上保安庁水路部)
- < コメント >
- S3 10:20-10:35 活断層調査の現状と課題 岡田篤正 (京大・理)
- S4 10:35-10:50 活断層の長期評価と問題点 松田時彦 (西南大・文)
- < 地盤と堆積平野 >
- S5 10:50-11:30 第三紀 - 第四紀地盤の形成過程 - 近畿を主として - 三田村宗樹 (大阪市大・理)・竹村恵二 (京大・理)
- S6 11:30-12:00 重力調査・反射法地震探査からみた基盤構造 中川康一 (大阪市大・理)
- 昼食 12:00-13:00
- < コメント >
- S7 13:00-13:15 堆積平野下の地盤構成と活構造 佐野正人 (サンコーコンサル)
- S8 13:15-13:30 沖積平野の地質構成とイベント堆積物 増田富士雄 (京大・理)
- S9 13:30-13:45 反射法地震探査と地下構造解析の重要性と問題点 横田 裕 (阪神コンサルタンツ)
- < 地盤災害 >
- S10 13:45-14:25 強震動予測と災害 入倉孝次郎・岩田知孝 (京大防災研)
- 休憩 15分 (14:25 - 14:40)
- S11 14:40-15:10 液状化現象と地形・地質条件 陶野郁雄 (国立環境研)
- S12 15:10-15:40 G I S 情報と地震災害 碓井照子 (奈良大・文)
- < コメント >
- S13 15:40 -15:55 地震被害と地形・地質条件 石川浩次 (中央開発)
- S14 15:55-16:10 活断層分布形態と破壊過程 中田 高 (広島大・文)・鈴木康弘 (愛知県立大・情報科学)

4. 巡検の概要

以下の内容で現在企画中です。

- テーマ： 近畿中・北部の活断層とそれに関連した地震・地形・地質
案内者： 寒川 旭・水野清秀・小松原 琢 (地質調査所) ほか
日 程： 8月26日 (木) 京都大学出発
8月27日 (金) 京都駅または新大阪駅解散 (検討中)
巡検コース： 琵琶湖西岸～湖北～敦賀～三方五湖～花折断層
(～有馬 - 高槻構造線：検討中)

5. 普及講演会

現在、尾池和夫氏、岡田篤正会員による普及講演会を、
8月26日 (木) または8月27日 (金) に企画中です。

『第四紀露頭集 - 日本のテフラ』 ブックセール

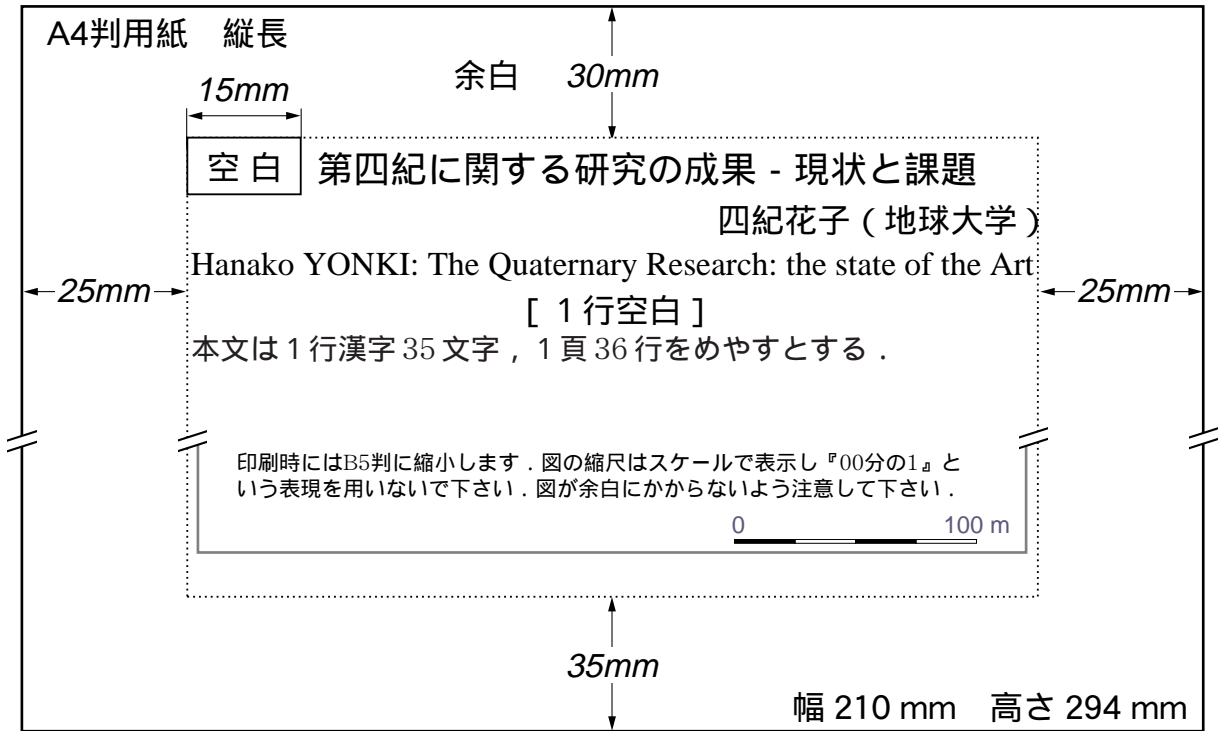
日本第四紀学会 40周年特別企画『第四紀露頭集 - 日本のテフラ』は発刊より学会内外から好評を博してきましたが、すでに刊行より2年以上を経過しました。新鮮な成果をできるだけ早い時期に活用していただくことを期して、下記のセール価格で販売することにしました。

一冊 1,500 円・50 冊以上一括購入の場合は一冊 1,000 円

ファックスか葉書に送付先・冊数を明記して下記へ申し込んで下さい。

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117

国立歴史民族博物館 辻 誠一郎 Fax : 043-486-4299



きりとりせん

発表申し込み用紙

氏名 (所属)			
題目			
発表内容 講演要旨には 掲載しません			
連絡先	〒		
			Phone
発表種別	一般研究発表		シンポジウム
をつける	オーラルセッション	どちらでもよい	ポスターセッション
スライド・ OHPの使用 をつける	スライド (8 枚以内)	スライド + OHP (8 枚以内)	OHP (8 枚以内)

第7回第四紀学会講習会参加報告

小森次郎（日本大学文理学部地球システム科学科）

本講習会は、1月30、31日の両日に国立歴史民俗博物館で行なわれました。昨年秋の名古屋大学での講習会に引き続いての開催で、前回担当の今村・坂本（歴史民俗博物館）、中村・小田・池田（名大）の各氏が講師を務められました。

講習は教室での講義と試料処理室での実習を交互に進行し、講義では初日に小田・坂本両氏によって試料の精製についての概論、二日目に中村氏により放射性炭素年代測定の原理から年代データの補正の概説、AMS法を用いた年代測定の紹介を行いました。

実習では木片試料の洗浄・酸-アルカリ処理、および試料処理の行程で必要となるガラス管の細工からグラファイト精製までを2名1組で受講しました。グラファイトの精製では、各種触媒を用いた試料の酸化・再還元、冷媒を用いたCO₂ガスの抽出、およびグラファイトのターゲットへの装填を実習と模擬実演をおりまぜて実施されました。ただやはり時間が足りなかったことから、試料のガス化以降の作業が主にデモンストレーションであり、十分に手を出せなかったと言うのが少々残念でしたが、一方では精製作業の難しさを再認識させられることになりました。

AMS法による年代測定は、微量な炭素で年代が求められ驚異的に便利になった反面、その感度の高さによって、生試料の採取・処理時の不適切な行為が測定結果に敏感に作用することが懸念されます。このことから、実習では細かい手順を覚えるよりも（勿論それも目的の一つですが）何故その行程が必要であるかといった原理的な部分の確認と、処理前の試料の扱い方や得られた年代値の補正に対してのユーザー側の認識・検討の必要性を講師陣が強調されていました。研修の最後には講習での技術的な疑問や、各種年代用試料の必要重量などのユーザー的立場からAMS¹⁴C年代測定方法への質問が盛んに飛び出していました。また、講習会世話人の辻氏を始めとした歴史民俗博物館の方々の準備による夜の懇親会では、参加者全員が大いに盛り上がり、宿泊先となった歴史民俗博物館の宿舎でも、夜遅くまで懇親会の延長戦が行なわれました。ここでも年代測定のデータに関する各人のとらえ方などに対して白熱した議論が交わされました。

今回の講習の一つの目的は、副題「放射性炭素年代の測定にむけて」にもあるように炭素年代測定のための、主に技術的な研修でした。しかし実際にはこれ以外に、前述したように年代測定試料自体の処置や求められた年代値に対する考え方を勉強できたというのが、参加した全員の感想だと思います。私の大学からは他に3名が参加しましたが、帰りの車中では充実した2日間を噛み締めるかのように全員が興奮していたような気がします。今回の参加者の専門分野が地形、古地磁気、考古、微化石、年代学等と多岐にわたることから、年代測定、特に¹⁴C年代測定に対する各種研究分野からの需要や関心の大きさを強く感じさせられました。一参加者として、今後の当講習の開催の継続を希望する次第です。

TIDAL ACTION, TIDAL PROCESSES AND TIDAL EFFECTS ON COASTAL EVOLUTION

A project sponsored by the International Geographical Union's
Commission on Coastal Systems, Porto Seguro
Brazil, October 3-9, 1999

1999年10月に表記の国際会議がブラジル第四紀学会年次大会に併せてバイア州ポルト・セグーロで開催されます。会議の詳細は下記ホームページにあります。事前登録、要旨提出期限は1999年5月30日です。

資料請求・問い合わせ先:

Guilherme Lessa Instituto de Geociencias - UFBA
Rua Caetano Moura 123 - Federacao 40210-340 - Salvador - Bahia - Brazil
Tel: (071) 332-0550 Fax: (071) 247-3004 e-mail: glessa@pppg.ufba.br
<http://www.pppg.ufba.br/~glessa/tidal/index.htm>

大学における第四紀学の教育・研究の現状について

第四紀研連委員WG（第16期・第17期委員）立石雅昭、小池裕子、大場忠道、野上道男

ここ10～20年に亘って大学の教育改革が全国的に進められたことによって、第四紀関連の教育・研究体制がかえって不明瞭になってきたのは多くの人が感じていることであろう。旧体制においては、

大学のXX講座、研究所の研究室等において、第四紀学を中心とした教育・研究が盛んに行われ、どこの研究機関で第四紀学に力が注がれていたかを比較的是っきりと見る事ができたと思われる。ところが、大学の学科名や講座名の変更と共に、また学問領域の細分化およびそれぞれの活発化によって、最近では第四紀学の教育・研究に力を注いでいる研究機関が不明瞭になってきたようである。

そこで第四紀研連では、国公私各大学から学部生および大学院生への第四紀関連の講義やシラバスを送って頂き、各大学における第四紀学への取り組みを把握しようと努力した。研連の16期から17期にかけて、送られてきた約30の国公立大学の資料を検討し、第四紀関連の講義が行われている研究機関を、その内容（地質学、地理学、古生物学、動物学、植物学、土壌学、人類学、考古学、地球物理学、地球化学、工学、他分野）に応じて図表化することを試みようとしたが、実際には各内容の把握が困難であったり、その区分が困難であったために図表化することはできなかった。しかし、送られてきた資料から次のようなことが見えてきた。

1) 第四紀学の研究内容は、現在のところ上記の12分野に分けられているが、各大学においてはそれまでの研究室の歴史を踏まえて、社会的要請も考慮に入れた新しい多様な教育体系の下で、第四紀学に関連した教育・研究の充実が計られている。その結果、これまで地質学や地理学的手法が中心であった第四紀学の研究は、12分野のそれぞれにおいて

より深遠にかつ新たな境界領域に向かって拡散しつつある。

2) 特に、第四紀という地質時代の出来事を理解するために、現在の自然現象を（高度な機器を使って）定量的に把握し、その結果に基づいて第四紀の現象を演繹的に理解するような教育・研究が盛んになってきた。

3) さらに、地質学の中でも最も新しい時代を研究する第四紀学を通して、将来の地球環境を予測するという実学的な目的や要素を取り入れた教育・研究が行われるようになった。

4) 一方において、学問の細分化と深遠化は、個々の学生に対して狭く深い知識を要求し、多面的な領域の知識と素養を身につけて、第四紀学を総合的な視野に立って見ることのできる研究者の養成を難しくしている。おそらく、各大学あるいは各分野において最も苦慮している点は、第四紀学の新たな担い手をいかに教育してゆくべきかということであろう。

各大学がそれぞれ特色を出しつつ、第四紀学の教育・研究体制の整備を図っている現在、第四紀学会としても、より積極的に第四紀学の教育体系や後継者の養成について、いかにあるべきかを組織的に討論することが求められている。分化・先鋭化の著しい先端的研究を担うとともに、第四紀学としての総合化を押し進める後継者を養成する教育・研究体制作りに向けた組織的努力が必要であろう。

本報告をまとめるに当たり、第四紀学会各位が属しておられる国公立・私立の大学から授業概要などの資料をお送り頂きました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

セルゲイ・A・セミョーノフ生誕100年記念国際シンポジウム

使用痕研究により考古学の世界に多大の貢献と影響をあたえたソビエトのセミョーノフを記念して、下記のように国際研究集会が開催されます。フランスのCNRSのDr. H. Plissonから連絡がありましたので一部を掲載します。詳細ならびに参加希望者は至急、Plisson氏までe-mailで連絡をとってください。（東京都立大学：小野 昭）

開催時期：1999年11月8～13日、開催地：ロシア共和国サンクトペテルブルク市
プログラムの予定内容

1. Advances in methods for macro- and microscopic analysis of tools and other artifacts.
2. Microscopic studies of archaeological data.
3. Experiments in use-wear analysis and other archaeological studies.
4. Prospects for use-wear and experimental research in archaeology.
5. Relevance of ethnoarchaeology to use-wear and experimental research.
6. Importance of use-wear and experimental research for the reconstructions in prehistory.
7. Use-wear analysis and typology : way for interaction.
8. Technological study of lithic industries and other sets of artifacts.
9. Modern differentiation of approaches to the study of archaeological data.

連絡先 Hugues PLISSON <e-mail: plisson@pop.cra.cnrs.fr>

Prehistoire et technologie, EP 1730 du CNRS, Centre de Recherches archeologiques
Sophia Antipolis, 06560 Valbonne - FRANCE, fax : 33/4.93.65.29.05

日韓地形学合同大会のお知らせ

日本地形学連合(JGU)1999年秋季大会は、韓国地形学会(GAK)と共催、国際地形学会(IGAG)の協賛で、「日韓地形学合同学術大会」として下記のように実施します。非会員の参加も歓迎します。

1. 会議名：日韓地形学合同大会

2. 期日：1999年8月17日(火)～21日(土)

8月17日：シンポジウム(安定陸塊(韓国)と変動帯(日本)との地形発達過程の比較)、懇親会

8月18日：一般研究発表(口頭発表およびポスター発表)

8月18日～21日：巡検

巡検予定コース：

18日 15時に全州出発、西海岸の海岸地形、錦江の河岸段丘など、茂朱リゾート泊

19日 徳裕山の山地地形、居昌の盆地地形など、慶州泊

20日 東海岸沿いの海岸段丘、海岸地形、太白山脈大関嶺付近の高位平坦面など、横溪邑泊

21日 南漢江上流の河川地形、利川付近のペディメント、花崗岩タフォニなど、17時ソウル到着後解散

3. 大会会場：全北大学校文化会館(韓国全羅北道全州市)

4. 主催：日本地形学連合・韓国地形学会

協賛：国際地形学会

5. 参加申し込み：

(1) 参加費：3,000円(予稿集を含む)

(2) 巡検参加費：約20,000円(3泊4日の交通費・宿泊・食費を含む)

(3) 懇親会参加費：1,500円

(4) 参加申し込み期限：1999年4月末日[所定の用紙をご利用下さい]

(5) 送付先：

611 - 0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所内 日本地形学連合事務局

電話 0774-38-4097, e-mail: jgu@slope.dpri.kyoto-u.ac.jp

(郵便振替：01010 - 9 - 28624)

6. 予稿集執筆要領

口頭発表、ポスター発表の希望を明記の上(時間の関係上、なるべくポスターでの発表をお願いいたします)下記要領で作成したカメラレディの要旨原稿(A4版2ページまたは4ページ)を提出して下さい。要旨およびポスターは必ず英語で作成して下さい。また口頭発表や討論も英語で行う事を原則としますが、日韓両国の国語も適宜併用できます。

要旨提出期限：1999年5月29日[所定の様式で作成して下さい]

送付先：314 - 701 韓国 忠南 公州市 新官洞182番地

公州大学校 師範大学 地理教育科, 崔成吉

7. 詳細はJGU機関誌「地形」19巻4号をご覧になるか、上記事務局まで

FIFTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON GEOMORPHOLOGY

of the International Association of Geomorphologists

President: Prof. Olav Slaymaker, University of British Columbia, Canada

FIRST CIRCULAR

23-28 August 2001, Tokyo, Japan

The Japanese Geomorphological Union (JGU) is honored to hold the Fifth International Conference on Geomorphology (5th ICG) at the Korakuen Campus, Chuo University, Tokyo, Japan, according to the agreement at the meeting of national delegates held at the Fourth International Conference on Geomorphology (Bologna, 30 August 1997). We invite all who are interested in geomorphology to attend. This First Circular provides early details for your preliminary (not binding) registration. A **Second Circular** with full registration details and firm prices will be sent in **February 2000** to all colleagues returning the preliminary form (mainly electrically form).

VENUE. Chuo University is located at the center of Tokyo about 60km from Tokyo (Narita) International Airport. There are many hotels and other accommodations of different classes in the environs.

DATES. The main conference lasts from the afternoon of 23 (Thu) to the evening of 28 (Tue) August 2001. It will contain plenary lectures, symposia, sessions (paper, poster, video and computer display), one-day excursions and other events. Pre- and post-conference activities include field trips, commission and workshop meetings.

ORGANIZING COMMITTEES

T. Suzuki (Local organizer), K. Kashiwaya (Secretariat), M. Nogami (Liaison), T. Okimura (Finance), T. Uda (Finance), S. Iwata (Treasurer), K. Saito (Treasurer), T. Sunamura (Sessions), H. Ohomori (Sessions), K. Okunishi (Symposia), A. Okada (Symposia), Y. Ono (Symposia), E. Tokunaga (Venue), S. Ouchi (Venue), T. Tamura (Excursion), S. Yokoyama (Excursion), Y. Matsukura (Publication), M. Umitsu (Publication), M. Aniya (Social Events), K. Urushibara (Social Events)

All communication should be addressed to K. Kashiwaya (Department of Earth Sciences, Kanazawa University, Kakuma, Kanazawa, 920-1192 Japan. e-mail: kashi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp). Up to date information on the Conference will also be obtained through the 5th ICG home page: <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jgu/>.

THEMES. Papers, posters, videos or computer displays may be submitted on any geomorphic topic but the organizing committees wish to emphasize the themes related to “**Geomorphology in tectonically, climatically and anthropologically sensitive zone**” exemplified by the Japanese islands.

Various themes for the session are planned, for example,

Hydro-geomorphology, Tectonic geomorphology, Climatic geomorphology, Steepland geomorphology, Fluvial Geomorphology, Plains and coasts, Environmental geomorphology, Engineering geomorphology, Theoretical geomorphology, Planetary geomorphology, GIS and remote sensing, etc.

Preliminary Registration will be accepted also electrically.

See the 5th ICG home page for registration: <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jgu/>

1998年日本第四紀学会第2回評議員会議事録

日時：1999年1月30日 15:45～18:00

場所：茗溪会館 4階 会議室

議長：福沢仁之

出席者：米倉伸之（会長）、太田陽子（副会長）、真野勝友（幹事長）、赤澤 威、赤羽貞幸、遠藤邦彦、奥村晃史、小田静夫、小野 昭、菊地隆男、斎藤文紀、陶野郁雄、福沢仁之、町田 洋、松浦秀治、山崎晴雄（以上評議員）、委任状19通

報告事項

1. 1997年度中間事業報告

1-1. 庶務

- (1) 会員動向（1998年12月31日現在）：名誉会員7名、正会員1,861名（うち学生費会員171名、在外会員25名）、賛助会員16社、団体購読会員104団体、逝去会員は井上克宏氏、貝塚爽平氏。
- (2) 以下のシンポジウム・講演会等の協賛及び講演を行った。海洋調査技術学会第10回研究成果報告会、「21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム」を後援、委員として吉川周作会員を派遣することとした。
- (3) 学協会著作権協議会からの複写権の登録依頼に対しては、日本第四紀学会は登録しないことを幹事会で決定した。
- (4) 日本地質学会のニュースレター「地質学会News」の関連学協会コーナーに「日本第四紀学会の紹介と行事予定」を掲載し、学会活動の広報に努めた。
- (5) 平成11年度科研費出版助成金の申請を行った。
- (6) 寄贈図書 of 整理を行った。
- (7) 論文賞受賞者候補者選考委員会の選考委員候補者選挙を行った。

1-2. 編集

- (1) 1998年8月26日の総会以降、機関誌『第四紀研究』37巻4号と5号の2冊を刊行した。内訳は4号（原著日本語論文3編・英文1編、書評2編、雑録1編、66頁）、5号（原著日本語論文3編・英文2編、短報1編、資料1編、書評2編、86頁）である。(2) 総会決定に基づき、1999年2月初頭刊行の第38巻1号から年6号を刊行する。そのための段取りを、編集委員会が準備した。『第四紀通信』も年6号刊行していることから、両者を同封で送付することとし、同時刊行のための調整を編集委員会と会報担当との間でおこなった。『第四紀研究』と『第四紀通信』の刊行は、偶数月のはじめとし、同じ印刷所で印刷する。
- (3) 現状の特徴として、論文（原著）の投稿が大変多く、長めの論文も少なからずあり、受理提案も毎回多く、予算の枠（70頁）もあるので、受理済みで掲載待ちの論文が急激に累積しつつあることがあげられる。ちなみに以下の通りである。・本年1月からの受付論文数38（月平均3.2）・1回に掲載可能な論文数（現在の印刷費の枠で）4～6・現在審査中の論文30・受理済み掲載待ち9。
- (4) 1998年度の最後の号（38巻3号1999年6月刊行予定）は、国際第四紀学連合INQUA第15回大会（南アフリカ共和国ダーバン市）にむけた特集号（英文）を組む。INQUA大会は8月3～11日であるが、通常号の第3号として組む関係と、なおかつ第四紀通信を同封する関係上、遅滞は許されない。したがって、6月1日には、発送の段取りであり、これを遵守する。

1-3. 行事

- (1) 1998年大会（総会、シンポジウム、一般研究発表、懇親会、巡検、普及講演会）を神奈川県立生命の星・地球博物館を中心に1998年8月26～29日に開催した。26～27日は、一般研究発表（口頭発表43件、ポスター発表29件）、評議員会、総会、懇親会を行った。28日は、シンポジウム「相模湾周辺の地震・火山とテクトニクス」（オーガナイザー：山崎晴雄・太田陽子・松島義章）（話題提供12件）を実施し、28日には松田時彦会員による普及講演会「神奈川県西部の活断層と地震」と巡検「国府津・松田断層、神縄断層沿いの地域における第四紀層の層序と変動」（案内者：山崎晴雄・今永 勇・小林 淳）を行った。26～28日における参加者は、250名（内会員179名、非会員71名）、普及講演会における参加者は約150名であった。全体での参加登録を行った人数は、378名（内会員180名、非会員198名）であった。
- (2) 1999年6月8日～11日に国立オリンピック記念青少年総合センターで行われる1999年地球惑星科学関連学会合同大会に参加するため、「第四紀」のセッション提案等の準備を行った。
- (3) 1999年日本第四紀学会大会の総会、シンポジウム、巡検等の準備を行った。大会は、1999年8月23日～27日に京都市の京都大学理学部で行われる（実行委員長：岡田篤正）。23日～24日に評議員会、一般研究発表、総会、懇親会、25日にシンポジウム「活構造と都市地盤・災害 - 阪神大震災から5年目の発信（仮題）」（オーガナイザー：岡田篤正、竹村恵二、杉山雄一、三田村宗樹、増田富士雄）を予定している。また、26～27日に寒川旭ほかの案内による巡検を準備中である。
- (4) 2000年日本第四紀学会大会の会場選定を行い、国立歴史民俗博物館に打診を行い、内諾を得た。

1-4. 企画

- (1) 第6回日本第四紀学会講習会を下記の通り開催した。テーマ：「年代を計る - 放射性炭素年代の測定に向けて」日時：1998年10月31日（土）・11月1日（日）場所：名古屋大学年代測定資料研究センター講師：中村俊夫・小田實貴・池田晃子・今村峯雄・坂本 稔参加者：11名
内容：タンデム加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定のための試料採取、試料調製の基礎のレクチャーとターゲット作成までの基本的な作業の実践。備考：施設・設備が特殊なこと、薬品・ガスを扱うため参加者を少人数に制限した。希望者が多いため、第7回以降も引き続いて講習会を開催する。
- (2) 上高森遺跡と周辺地域のテフラ巡検を下記の通り開催した。テーマ：上高森遺跡の見学と周辺地域のテフラ観察日時：1998年11月7日～8日場所：宮城県栗原郡築館町 - 岩出山 - 古川講師：上高森遺跡発掘調査団・早田勉・長友恒人・豊田新・鈴木毅彦・山田晃弘参加者：16名
内容：調査中の上高森遺跡の石器や遺構の状況の観察、同様の年代の周辺遺跡の地層断面の観察、最近発表された中期更新世の広域テフラの観察
- (3) 第7回日本第四紀学会講習会を下記の通り開催する。テーマ：年代を計る - 放射性炭素年代の測定に向けて

日時：1999年1月30日(土)・31日(日)
 場所：国立歴史民俗博物館 年代測定室・研修室
 講師：今村峯雄・中村俊夫・坂本 稔・小田實貴・池田晃子

内容：タンデム加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定のための試料採取、試料調製の基礎のレクチャーとターゲット作成までの基本的な作業の実践。

- (4)三内丸山遺跡・大谷沢野田遺跡と周辺地域の巡検を以下の通り開催する。

テーマ：縄文遺跡の見学と最終氷期以降の大露頭から環境変遷を考える

日時：1999年6月頃の土・日曜日(2日間)(日程調整中)

場所：青森県三内丸山遺跡、大谷沢野田遺跡

趣旨：縄文前・中期を主とする三内丸山遺跡はこれまでの発掘調査と集落復元・景観復元・公開活用などの基礎調査と平行しながら公園として整備されつつある。また、青森平野南部の縄文前期を主とする大谷沢野田遺跡は、巨大な遊水池建設事業の際に発見されたが、巨大な全面露頭には最終氷期の扇状地上の森林や十和田火山の火砕流に埋没した森林、縄文時代の谷の埋積過程で埋没した森林が観察されるため、広大な面積にわたって露頭保存の方向で調査が進められている。いずれも第四紀学にとって重要な遺跡・露頭の保存と整備が今も進められている。この巡検では、それらの重要性やこれまでの経緯と成果を現地見学を通して理解しようとするものである。

- (5)「第四紀露頭集 - 日本のテフラ」は刊行後すでに3年以上が経過しているが、残部は今も約千冊にのぼり、収納等にも問題を来している。また、露頭の保存記録だけでなく普及や広範にわたる活用をも目的としており、早期に販売を促進することが不可欠になってきた。そこで、ブックセールを実施し、大学での参考書等への利用を促したい。一冊1500円(送料別)とし、50冊以上のまとめ買いの場合一冊1000円とする。申し込みは従来通り、国立歴史民俗博物館の辻誠一郎(企画担当幹事)まで。

1-5. 広 報

- (1)「第四紀通信(QR Newsletter)」Vol. 5-5(1998年9月), Vol. 5-6(1998年11月), Vol. 6-1(1999年1月・印刷中)を刊行した。
- (2)文部省学術情報センターのインターネットWWWサーバ上の日本第四紀学会ホームページを通じて広報活動を行った。「第四紀通信(QR Newsletter)」の最近のバックナンバーを電子文書(PDF)化して同ホームページに掲載した。

1-6. 渉 外

- (1)自然史学会連合関連：
1. 自然史学会連合の主催により第4回シンポジウム「干潟の自然史」が10月24日(土)に開催された。約100名の参加者があり、活発な議論の場となった。
 2. シンポジウムに先立って総会があり、会計報告、顧問の決定(7名, 2年間)、日本昆虫分類学会の加盟承認、のほか連合の活動の活発化についての討議があった。
 3. 科学研究費補助金「自然史科学」の配分委員候補者の推薦について、文部省との協議を行い、改めて、

既に決定済みの候補者12名の内、上位6名を文部省に推薦した。これは、文部省の意向で、既存の審査員6名のうち3名を継続し、3名が交代する事にしたためである。

- (2)地球惑星科学関連学会関連：1999年合同大会の準備が順調に進行している。合同大会組織委員会から、合同大会に合わせて、各学会で開催される総会・評議員会・その他の会合・集会について、会場の申請について案内が来ている。第四紀学会でも、合同大会の場を利用することを考えても良いのではないかと。
- (3)地球環境科学関連学会協議会関連：1998年12月15日に、地球環境科学関連学会協議会(第3回)が開催され、協議会の活動について討議された。特に、一般向け「地球環境科学の講演会」(京都市)の計画が紹介された。また、この協議会に引き続き、地球環境科学関連の専門書シリーズの出版計画に関して出版企画検討特別委員会が開催された。

2. 1998年度会計中間報告

1998年11月30日現在の収支試算表(別紙)について

- (1)収入については、大会運営費の残金および巡検準備金の返還、第四紀通信への広告確保など、努力が払われているが、会費収入が例年よりやや下回っている(特に賛助会員会費の納入遅れが目立つ)ことを反映して、全体としてはやや停滞気味である。
- (2)支出については、会誌の若干の増頁に伴う(会誌印刷費の値引き等を差し引いても)支出増、また、その他やむを得ない支出増もみられるが、大規模な増加は今のところ無い。
- (3)予算執行の収支バランスとしては、現在のところ、やや(20~30万円程度)赤字気味である。学会会計は依然厳しい状況にあり、40周年記念刊行物企画編集費(130万円分)の現物支給などの措置に関する格別な協力の申し出も寄せられている。

3. 日本学術会議第四紀研連報告

太田陽子第四紀研連委員長より以下の報告があった。

- (1)任期中に研連の主催・共催で4~5のシンポジウムを実施する予定である。
- (2)大学における第四紀学教育について情報収集を行った。報告は第四紀通信に掲載予定である。
- (3)第15回INQUA大会(99年8月)に日本の代表として町田洋委員を派遣する。また、INQUAの次期執行委員には、日本は委員長にオーストラリアのN. J. Shakleton氏を推薦する。

審議事項

4. 編集委員会関係

- (1)来年度予算(38-4号以後)で、頁増をして、受理済み掲載待ち論文を、最大限掲載する方策を探る。
- (2)現状では、隔月刊行で編集委員会・編集書記ともに体制的にほぼ限界である。一日単位のタイトなスケジュールで編集をおこなっているため、印刷完了から発送までの間を可能な限り無駄をなくし、流れを良くする必要がある。

以上については質疑の後承認された。

質疑

問:論文を増やすのもよいが、質を高めて掲載比を低め、論文の数を減らすことを考えたらどうか。

答:査読を経て受理された論文の数が増えている。論

文数の増加は学会の活性化の現れであり、執行部としては掲載論文数を減らすという方針はとらない。
問. 会誌・会報を同封して発送するのなら2つを分ける必要があるのか。

答. 同時発送だが、機能が異なるので分けている。

問. 行事通知等が間に合わなくなることはないか。

答. 会報の出版ペースは従来のままである。間に合わないものは学会のホームページに掲載する。

5. 1999年及び2000年日本第四紀学会大会について
(1) 1999年日本第四紀学会大会の総会、シンポジウム、巡検等は、1999年8月23日～27日に京都市の京都大学理学部で行われる(実行委員長:岡田篤正)。23日～24日に評議員会、一般研究発表、総会、懇親会、25日にシンポジウム「活構造と都市地盤・災害-阪神大震災から5年目の発信(仮題)」(オーガナイザー:岡田篤正,竹村恵二,杉山雄一,三田村宗樹,増田富士雄)を予定している。また26-27日に寒川旭ほかの案内による巡検を準備中である。評議員会は8月23日の一般研究発表後に開催の予定である。
(2) 2000年日本第四紀学会大会については2000年8月に千葉県佐原市の国立歴史民族博物館で実施する方向で準備・検討中である。シンポジウムについては、辻誠一郎会員を中心に歴史・考古・情報資料を横断するようなテーマが検討されている。質疑の後、原案は承認された。
会長意見:第四紀学会は非会員を含め、社会と接点を持った学会活動をして行きたい。意見:総会の時には必ず普及講演を開催したらどうか。
6. 日本第四紀学会論文賞選考に関する内規の改正について
論文賞に関しては、性格が不明瞭なため選考に混乱

を来すとして、歴代の選考委員より性格の明確化と規定の改正を求められていた。これについて幹事会で検討の結果、論文賞選考に関する内規の改正案を提出した。

審議の結果、最初に「1. 論文賞は、当分の間、若手研究者の育成と研究奨励に寄与することを目的とする」、を追加。これまでの項目番号を1, 2, 2, 3と一つずつずらす。4. は「論文賞が複数の著者(研究グループ等を含む)により執筆されたものである場合には、執筆者一同に論文賞を授与する」とし、「また非会員を」以下の文章を削除することなどが決定された。若手研究者については原案では年齢を規定していたが、賛否両論があり、幹事会で継続して審議することとした。

7. 1998年度論文賞選考委員の選出について
会長が分野を付して指名した11名の委員候補者について、評議員による選挙の結果、以下の投票結果を得た。このうち上位5名を選考委員として選出した。以上について審議の後承認された。なお、委員の名簿は論文賞選考確定後に公表する。
8. 日本でのINQUA開催の可否を検討するための委員会を設置する。
委員については第四紀研連より3名、日本第四紀学会からは5名の委員を推薦する。第四紀研連からは、太田陽子、小野 昭、小野有五の3氏が推薦され、第四紀学会からは、熊井久夫、小池裕子、斎藤文紀、平川一臣、米倉伸之が幹事会より推薦された。
審議の結果、本件は承認された。

日本第四紀学会 第12回幹事会議事録

日時: 1998年12月19日(土) 14:00 ~ 17:30
場所: 筑波大学学校教育課 E235室
出席者: 米倉会長, 太田副会長, 真野幹事長, 小野, 松浦, 斎藤, 辻, 奥村, 山崎, 山本(学会事務センター)

報告事項

庶務幹事報告

- 平成11年度文部省科研費出版助成金の申請を行った。
- 21世紀の地学教育を考える大阪フォーラムの趣旨に賛同し、後援団体となり実行委員会に委員を派遣することとした。
- 元会長貝塚爽平先生の葬儀について。
- 受け入れ図書報告。

会計幹事報告

- 収入は順調に入っているが、支出がやや多く若干赤字気味。例年に比べ会費収入があまり伸びていない。特に企業からの納入が遅れている。

編集幹事報告

- 1999年2月刊の38巻1号から年6号化を行う。また、第四紀通信の発行時期を変更して、両者を同封して発送することとし、編集委員会と会報担当者との間で打ち合わせを行った。
- 論文投稿、受理件数が多く受理済み掲載待ち論文が増加している。

行事幹事報告

- 1999年大会シンポジウムについて、プログラム案できた。
- 2000年大会について、問い合わせ先より受諾回答を得た。シンポジウムについては考古・人類を中心としたものにしたい。
- 1999年地球惑星科学関連学会合同大会について、セッションの日程が確定した。6月9日午後、会場C401。講演登録締切は2月26日、参加登録締切は3月31日。登録時期が遅いほど登録料が高くなるので注意。

会報幹事報告

- 第四紀通信 Vol.5, No.6を発行した。
- 次回(2月)から会誌と一緒に発送する。

企画幹事報告

- 第6回第四紀学会講習会を名古屋大学で行った。参加者は11名でAMS年代測定をやりたいという人が大半。講習はターゲット作りのデモンストレーションを中心に実施された。講師は中村俊夫他6名。経費の赤字分は学会より補填した。
- 11月7日・8日に宮城県築館町上高森遺跡と周辺地域のテフラに関する巡検を行った。参加者は16名。案内者は小野昭氏ほか5名、詳細は第四紀通信 Vol.5, No.6参照。
- 第7回第四紀学会講習会は第6回と同じテーマで1月30日・31日に千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館に

において実施する。

渉外幹事報告

中村幹事欠席のため、庶務幹事が代理報告。内容は評議員会議事録と重複するため省略。

第四紀研連報告

- ・ INQUA の代表派遣には町田洋氏を選出した。
- ・ 研連見直しの動きがあるが、実施は19期以降になる。そのときは大分野の総合研連ができ、既存の研連は専門委員会になる可能性がある。
- ・ 地質科学連合体を作ろうという動きがある。

会長報告

- ・ 1998年度日本第四紀学会論文賞選考委員候補者について分野を付記して11名を指名した。評議員の選挙によりこの11名の中から5名を選考委員として選出する。

審議事項

庶務

- ・ 後援および寄付依頼の検討
- ・ 選挙管理委員会の組織、委員指名(江口誠一、久保純子、近藤 恵、樋泉岳二、宮地良典、山田周二の各氏)、経費等
- ・ 論文賞選考規定の改正について、評議員会に諮るための内規の改正原案を検討した。

編集

- ・ 来年度予算(38巻4号以降)では、大幅なページ増を行って受理済み掲載待ち論文を最大限掲載する方法を探る。
- ・ 執筆要項の改正について、前回総会で決定された投稿規定の改正に対応したものである。

日本第四紀学会 第13回幹事会議事録

日時:1999年1月30日(土) 12:00~13:00

場所:茗溪会館

出席者:米倉会長,太田副会長,真野幹事長,小野,松

浦,斉藤,奥村,山崎,山本・中川(学会事務センター)

議事次第および評議員会資料に基づいて、同日実施する評議員会の実施手順、報告・討議内容について打ち合わせを行った。

日本第四紀学会論文賞選考に関する内規

(1994年8月26日評議員会,8月27日総会,1995年1月28日評議員会,1997年8月6日総会,1999年1月30日評議員会改正)

1. 論文賞は、当分の間、若手研究者の育成と研究奨励に寄与することを目的とする。
2. 選考の対象とする論文は、授与年の前々年及び前年の2年間(2巻分)の第四紀研究に発表された原著論文、短報、総説、及び特集号の論文とする。
3. 論文賞の授与は原則として毎年とし、受賞論文数は2編程度とする。
4. 受賞論文が複数の著者(研究グループ等を含む)により執筆されたものである場合には、執筆者一同に論文賞を授与する。
5. 選考委員は、会長が専門分野を付記して推薦した10名以上の正会員のなかから、評議員の投票により選出される。得票数が同数のときは、専門分野の委員数が少ない者を委員とする。専門分野の委員数も同数の場合は、年長順とする。
6. 選考委員が受賞候補者となった場合には、賞の選考に関与しないこととする。
7. 選考委員に欠員が生じた場合は、次点者を補充する。
8. 受賞候補者の推薦書類は、授与年の3月末日までに日本第四紀学会論文賞選考委員会宛てに提出する。
9. 受賞候補者の推薦書類には次の事項を記入する。推薦者名(自薦を含む)、受賞候補者名、受賞候補論文名(巻号頁を含む)及び推薦理由。
10. 会長は第四紀通信に論文賞受賞候補者の推薦募集に関する記事を掲載する。
11. 選考委員長は第四紀通信に受賞者と授賞理由を発表する。

会員消息

太田陽子会員にニュージーランド
王立協会名誉会員の称号

1998年11月、ニュージーランド王立協会は本学会の太田陽子会員・副会長に対して、過去25年におよぶニュージーランドの地殻変動や古地震の調査・研究、およびその公表の成果をたたえて名誉会員の称号を与えた。この称号はニュージーランドに関する自然・人文・社会科学研究に著しい貢献のあった外国人と国外在住のニュージーランド人に与えられ、現在存命中の名誉会員は世界で38人である。

1998年12・1999年1月分会員異動
新入会員

谷口雅亮(所属)北海道警察旭川方面本部鑑識課科学捜査研究室

李 年揆(所属)国立麗水大学校海洋学科

福田元彦(所属)弘前大学大学院理学研究科地球科学専攻

野村亮策(所属)秋田大学鉱山学部資源素材工学科

尾口俊一(所属)三協工業(株)京都工場

杉山和弘(所属)通商産業省工業技術院地質調査所海洋地質部

渡辺 豊(所属)通商産業省工業技術院資源環境技術総合研究所環境影響予測部

津田秀典(所属)(株)東建ジオテック松山支店技術部

寺内万里子(所属)金沢大学理学部附属低レベル放射能実験施設

所属・住所変更（受付順）
坂井眞一（所属）川崎地質（株）海洋調査事業部
中山茂樹（所属）群馬町立金古南小学校
白瀬美智男（所属）福島県立遠野高等学校
堀越信男（自）
鈴木 威（自）
安間 恵（所属）川崎地質（株）営業本部
菊山浩喜（所属）川崎地質（株）関東支社技術部
中垣幸恵（自）
田中艸太郎（自）
金栗 聡（所属）川崎地質（株）本社海洋調査部
坂本順哉（所属）川崎地質（株）海洋調査部
柘植 孝（所属）川崎地質（株）環境防災事業部
原 晴彦（所属）川崎地質（株）環境防災事業部
橋詰 潤（自）
宇野泰光（自）
大石道夫（所属）砂防エンジニアリング（株）
坂部和夫（所属）日本福祉大学社会福祉学部
鈴木正男（所属）立教大学理学部化学科
永塚鎮男（所属）（有）日本土壌研究所
長内優之（所属）国際航業（株）新事業開発本部
中筋治雄（所属）（株）ダイヤコンサルタント北日本
支社札幌支店
北田奈緒子（所属）（財）大阪土質試験場
藤岡換太郎（自）
丸茂義輝（所属）科学警察研究所法科学第三部
田中英幸（自）
勝又麻須子（所属）先史時代比較研究会
（団体）農林水産省森林総合研究所四国支所

退会者 河内一男，松尾健二
沖縄県林業試験場育林保全室 生沢均（団体）

穉

第四紀通信に原稿をお寄せ下さい

広島大学文学部地理学教室 奥村晃史 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3
kojiok@ipc.hiroshima-u.ac.jp
Phone: 0824-246657 Fax: 0824-240320

発行スケジュールが変わりました!!

次号は5月上旬原稿締切-6月上旬発行予定です。
インターネットにアクセスできる方は第四紀学会ホームページ
<http://www.soc.nacsis.ac.jp/qr/>で最新情報をチェックして下さい。